

秋田県派遣教員インタビュー 主体的な学びのカタチ



授業も家庭学習も、児童生徒が主体的に取り組むことで、将来にわたって役に立つ「粘り強く課題を解決する力」や「コミュニケーション力」などを育てることにつながります。



▲教え合いは伝え方を鍛え復習にもなる

色んな力を伸ばす授業(山本先生)
秋田県では「探究型授業」という授業が行われています。授業ごとに「めあて」を黒板に明示し、問題を解くなかで、理屈や仕組みを理解できるよう授業を行います。各自が自力で考えてから皆で意見を発表し合い、討論する。それぞれが発表し合い、学級としてまとめた考えを自分の言葉でまとめるという方法です。あくまで子どもが主体で、教員は学びを導き支える立ち位置です。授業の理解度だけでなく、地域や社会で欠かせないコミュニケーション能力の形成にも効果



山本朝子先生
平成31年度、秋田県能代市立小学校派遣

中学校でも、探究型授業を行い、生徒が「今日の授業で何が身に付いたのか」が実感できるようにしています。生徒は部活動後の限られた時間をうまく活用し、集中して自主学習に取り組む能力を身に付けており、小学校から積み重ねてきたことが、中学校での学習にも生かされていると感じられました。生徒は、地域の清掃や祭りへの参加意欲も高く、行事やスポーツ大会のあいさつでも「地域に応援されるように」地域

家族や地域が寄り添う大切さ(服部先生)
中学校でも、探究型授業を行い、生徒が「今日の授業で何が身に付いたのか」が実感できるようにしています。

的で「自分から相手に聞ける声である」ということを「自己決定ができる」「思いを自分の言葉で話せる」などの自分で考えて行動する力も養うことができる授業だと思っています。児童からも「友達が自分とは違う考え方をしていることが聞けて面白い」と楽しんで学んでいる様子が見られます。また、どの学年・教科でも探究型の授業が行われているため、学年が上がっても初回の授業からスムーズに授業を受けられる体制がありました。家庭での自主学習は小学1年の6月から始まり、保護者がチェックしたものを提出します。高学年になると、苦手科目に自主学習で取り組む様子が見られ、小さい頃から学習の習慣を身に付けることの大切さを感じています。子どもたちの学習中、保護者の皆さんも、同じ場所で仕事や読書をするなど、一緒に過ごしてあげると、より良いかと思えます。



▲授業後も生徒同士で議論が始まる

に元気を与えられるように」などの言葉を、言われるのではなく自ら使っており、地域で子ども達を大切に育てる風土は貴重な財産だと感じました。家庭学習でも、授業同様に「めあて」を決め、学習後にめあてに対する「振り返り」をします。これによって家庭でもやらされているのではなく主体的な学びになります。小さいうちは、家庭で丁寧に見てあげる必要がありますが、中学生など年齢を重ねても、子どもが何をやっているのかに関心をもち「見張る」のではなく「見守る」姿勢で子どもたちの育ちに寄り添ってほしいと思います。



服部卓磨先生
平成30年度、秋田県能代市立中学校派遣



教育の今

— 生きる力を育む —

▲授業の中で、自分の考えを説明したり友達と交流したりすることで、互いの考えを共有し、さらに理解を深める

世の中が日々、目まぐるしく変化しているように、学校や教育も時代と共に変化しています。本市の教育は、子ども達が5年先、10年先の未来に、社会で生きる力を育むことを目指しています。本市の「ふるさと舞鶴を愛し、夢に向かって将来を切り拓く子ども」を育てる「教育の今」を紹介いたします。

子ども達が学校で学ぶ内容は、国が定める学習指導要領で示されています。一方で、各地域ごとに、伝統行事はあるか、地域のひととの交流の機会はあるか、といった学校外の活動は、その地域の特色によってさまざまです。市では、平成28年からの4年間、全国学力・学習状況調査(全国学力テスト)で、トップクラスの成績を挙げる秋田県と福井県に教員を計4人派遣。両県には、学校の取り組みだけでなく、家庭や地域での生活や保護者の教育に対する考えなどにも特徴がありました。

そこで、児童生徒を取り巻く学校や地域での学びの環境や特徴を、本市の教育に生かす取り組みを進めています。

《舞鶴市教育委員会》